

平成 29 年度新宿区外部評価委員会 第 5 回会議概要

<開催日>

平成 29 年 12 月 8 日（金）

<場所>

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

<出席者>

外部評価委員（11 名）

名和田是彦、星卓志、荻野善昭、小池玲子、小菅知三、小林浩司、鶴巻祐子、野澤秀雄、林直樹、鱒沢信子、安井潤一郎

事務局（5 名）

宮端行政管理課長、池田主査、三枝主査、杉山主任、原田主任

<開会>

【会長】

皆さん、こんにちは。

ただ今から第5回新宿区外部評価委員会を開催します。本日は、行政評価の手法等の検証を行います。皆様からは、試行してみでの感想や意見を事務局に事前に提出していただいております。試行での課題や改善点等を受けて、行政評価の手法等の検証についての答申内容をまとめていきたいと思います。

では、次第の1「行政評価の手法等の検証について」です。前回、検証の1つとして、皆さんには部会に分かれて所管課とのヒアリングや評価の取りまとめを実際に試行していただきました。はじめに、試行の振り返りをしたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

外部評価の試行にご協力いただき、ありがとうございました。委員の皆様からいただきました意見等を、資料1「試行についての主な意見・感想等」に項目別にまとめていますので、主な意見を説明します。

1つ目に、評価シートについてです。「分析・評価」欄の「役割」「効率性」「有効性」「成果」の内部評価は、4択の項目のうち、どの施策も「おおむね取り組んでいる」「おおむね効果的」などの上から2番目の評価になることが推測されるため、評価区分を設ける必要があるのか否かについて、選択肢の数も含めて検討する余地があるのではないかというご意見を頂いています。

「今後の取組の方向性」欄については、計画事業評価シートに記載されている内容を抜粋し

て持ってくる形が多くなるため、施策単位での独自の評価という性格が薄くなるのではないかという印象を受ける。この点について、改めて考える必要があるのではないかというご意見を頂いています。

「目標設定」の欄については、「評価」欄の「目標」と別の用語や表現を使い、できる限り、施策全体の成果を評価し得る数値目標を設定する必要があるのではないかというご意見を頂いています。

また、「総合評価」として結論が初めにあるなど、シート全体の項目の配列が分かりやすく、見やすいというご意見も頂いています。

2つ目に、ヒアリングについてです。部会の開催回数や各回の会議の内容、時間配分について、どのようにすれば、効果的、効率的に実施できるかということを検討する必要があるのではないかというご意見を頂いています。

施策単位の評価となることで複数の所管課が一堂にヒアリングに同席するため、ヒアリングのやり取りの中で、その場ではないと確認できないような点や気づきが得られて良かったというご意見も頂いています。

また、施策全体の全体像、構成、各事業の関係について理解した上で評価をするためには、評価シートだけではなくて、施策の概念図などの別の資料があるとより分かりやすいのではないかというご意見も頂いています。

3つ目に、評価の取りまとめについてです。外部評価チェックシートの「役割」「効率性」「有効性」「成果」「取組の方向性」の欄について、計画事業単位での外部評価を行わざるを得ない場合に、チェックシートの記入欄が事業数に対して小さいのではないかというご意見を頂いています。

また、評価の取りまとめの方向として、計画事業を1事業ずつチェックシートを記入した上で、それらをまとめる形で施策評価のチェックシートをまとめた方が良いのではないかというご意見も頂いています。しかし、この場合は外部評価委員の負担が増すことが懸念されるという意見もあります。

4つ目に、全体に関することについてです。施策単位での評価については、事業単位の評価をまとめるような形にするのであれば、運用の仕方、補足的方法の工夫として、補足説明の資料等を活用することで対応できるのではないかというご意見を頂いています。

また、外部評価における経常事業の位置づけや視点の置き方について、明確にしておく必要があるのではないかという意見を頂いています。

評価シート全般にわたることとして、書き方の工夫、表現方法の統一が必要ではないかというご意見も頂いています。

5つ目に、良かったという意見についてです。施策単位での評価においては横のつながりが分かりやすく、全体像が見やすくなった、区の施策体系及び取組の全体像が分かりやすいというご意見を頂いています。これまでの計画事業単位の評価では、全体像の流れが見えず、事業がどこに位置しているのか分かりにくかったが、施策評価はその問題を解決する手段になるの

ではないかというご意見も頂いています。

【会長】

ありがとうございます。

では、実際に試行してみての感想や意見、お気づきの点などがあると思いますので、皆さんにお聞きしたいと思います。発言のある方はお願いします。

【第1部会長】

施策単位での評価を実際に試行してみて、意外とできそうだなという感想が第一にあります。その一方で、1つの施策の目標を実現するために個別の事業が体系化されているのですが、施策全体の目標に対して、それぞれの個別の事業がどのように貢献しているかという関連については、分かりにくい面があります。そもそもの体系についても疑問があるという面もありますが、大きな施策目標をどのように達成していくかということが読み取りにくいと感じました。

また、施策に対し数値目標を設定して、その達成度で評価するということには無理があると感じました。抽象的な施策に対して数値目標を設定したとしても、非常に抽象度の高い数値目標にせざるを得ないと思います。1つの個別事業を取り出して、その事業の進捗度を測っても意味がないと思いますので、数値目標をどうするかという点については、相当難しいという気がしています。

【会長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】

個別施策単位での評価に当たっては、施策を構成している計画事業をそれぞれ丁寧に評価した上で、個別施策をどのように評価できるかということを大事にしたいと感じたところです。今回の試行においては、個別施策の全体像が見えるという点では、非常に良い試みであると思いますが、施策をざっくりと大きく評価することについては、非常に厳しいのではないかと感じました。そのため、個別の計画事業を評価した上で、この施策はどうかという評価に結びつけていくというやり方を大事にしたいと考えます。

【会長】

ありがとうございます。

これまでの外部評価の方法として、計画事業、経常事業、あるいは補助事業という単位で評価をしてきたので、個別の計画事業の評価の積み上げとして個別施策を捉えなければ、評価が難しいのではないかと感じています。個別の計画事業や経常事業の取組状況等を理解し、それらの評価を積み上げた上で、施策単位で評価するという考えです。このように考えると、先程ご指摘のありました数値目標の扱いが非常に重要な論点になると思いますが、これについては1つの例示のようになるのではないかと思います。

ほかの委員の皆さんからもご自由に発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

実際に試行してみて、個別施策の役割、効率性、有効性、成果等の評価が自分自身でしっか

りできていないと、総合評価を記載するに当たり難しいと感じました。

また、内部評価シートの「分析・評価」の項目の中の設問は、4択の選択肢のうち上から2番目の評価になってしまうのではないかという気がします。もう少し深みのある検証が必要ではないかと感じました。

【会長】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】

ヒアリングでは複数の所管課の方が出席されていましたが、どうしても関心のある事業について多く質問をしてしまうということがありました。施策全体として評価することが非常に難しいと感じています。それぞれの計画事業を評価して、その結果として施策を評価するような形でないと評価ができないのではないかと思います。一つひとつの事業の評価を積み上げていくというような方法がいいのではないのでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。

対象の個別施策の性格によるかもしれないですし、委員の関心にもよるかもしれませんが、個別施策という広い範囲の中の特定の事業についてのみヒアリングしたのではないかという不安が後で出てくるのではないかという気がしています。その意味では、個別の計画事業、経常事業の評価を積み上げ、内部評価シートを読み解いていき、その上に個別施策の判断をすることが重要ではないかということですね。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

これまでの個別の事業ごとの評価の場合は、一つひとつの事業が全体の中でどの位置付けで、どのような役割を担っているかということが分かりにくいということがあり、そのような意見も述べてきました。施策評価の試行をして、個別施策単位での評価がありその裏に各事業の評価があるという体系を見たときに、施策としての1つの大きな目的に向けて、個々の事業を実施しているということがよく分かったように思います。その意味では、施策評価は非常に意味のあることだと感じます。

他の委員が述べていたように、個々の事業の評価を積み上げて、施策を評価するということは重要だと思いますが、はじめに、施策の目的や施策を構成するそれぞれの事業の役割についての説明があると、より分かりやすくなるのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

資料1「試行についての主な意見・感想等」についてですが、第1部会から第3部会まで、各委員の意見をすべてまとめて記載しています。まちづくり、環境、福祉、子育て、文化、コミュニティなど担当している部会ごとの担当で出てくる意見も違うと思いますが、3つの部会の

意見をまとめてしまうとそれが分からないので、委員ごとや部会ごとの意見として示した方が
良いのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。

確かに、部会ごとに意見に違いがあるかもしれません。事務局に聞きますが、部会ごとの意見
の特徴など感じられた点がありますか。

【事務局】

部会ごとに、評価の対象とする事業の分野に違いがあります。対象の事業の性格によって、
例えば、個別の事業の具体的な内容に意見が集中しやすい場合や、事業の内容というよりは区
の事業に対する取組姿勢についてご意見やご指摘をいただく場合など、ヒアリングにおいても
部会ごとの違いあったのではないかと感じています。本日の資料についても、部会ごとにご意見
やご感想を示した方が分かりやすかったのではないかと思いますので、今後は資料の整理の
仕方や見せ方も工夫していきたいと思います。

また、本日欠席されている委員からの意見として、外部評価のヒアリングに当たっては、
個々の委員による内部評価シートや資料の確認だけでなく、部会として事前の勉強会のような
ものがあった方が良いのではないかという意見をいただいています。対象の個別施策がどのよ
うなものでどのような事業で構成されているかということや、施策や事業の目的等について、
部会として共通認識を持ち、内部評価シートを確認した上で、ヒアリングでどのような質問を
していくかという事前の準備や論点整理などが、非常に大事になってくるのではないかという
ご意見です。他の委員の皆様のご意見とも通じるものがあると思いますので、ご紹介だけさせ
ていただきました。

【会長】

ありがとうございます。

そのほかにご意見などありましたらお願いします。

【委員】

平成28年度の外部評価委員会で、実際の現場を見るという現地視察を実施しました。今後の
外部評価の過程においても、ヒアリングの事前もしくは事後に、現場を見るということも必要
ではないかと思います。

また、先程のご意見のように、限られた時間の中でヒアリングを行っていくことになるので、
事前に部会の意見として要点をまとめていかないと、効果的、効率的に実施することは難しい
のではないかと思います。評価シートについては、結論を先に示すことで非常に分かりやすくな
ったと思います。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

試行をしてみて感じましたが、特に施策評価シートについては、「おおむね良好」や「目標

どおり」という評価になってしまうのではないのでしょうか。今回は4択の選択肢でしたが、選択肢をいくつにしてもそのような傾向になってしまう気がします。総合評価の内容については、様々な視点からの内容が含まれているわけですが、この内部評価シートを作成するに当たって、所管部署の負担が増えたのではないのでしょうか。

【事務局】

施策単位での評価については新たに実施することですので、負担という意味では、新たな作業が増えることになります。そのため、今回の試行で使った内部評価シートは、事務作業量ができるだけ低減できるようにするという観点でレイアウトを考えた部分もあります。行政評価のために改めて書類を作成するのではなく、通常の事業を実施していく中で、既存のデータなどを使用し評価シートを記入できるようにするという観点で検討しているところです。また、担当部、担当課にも、試行をしてみてもの意見や感想を聞いていますので、それらの意見等も踏まえた上で、平成30年度以降の行政評価の手法等について確立していきたいと考えています。

【委員】

これまでの評価では、個々の計画事業をそれぞれ評価していたので、区の体系のどこに位置しているのかが見えないままに評価しているということを強く感じていました。今回の試行においては、個別施策、計画事業、経常事業をまとめてヒアリングの場で説明いただき、それを評価するという方法だったため、これまでの評価方法に比べ良かったのではないかと思います。

しかし、個別施策の中には、非常に多くの部署が関係しています。違う部や違う課がいろいろとまたがっているところで、それを個別施策でまとめて総合評価するということは、やはり少し乱暴な評価の仕方ではないかと感じました。全体像を理解した上で、個々の計画事業の評価をして、その積み上げとして個別施策の評価をすべきではないかと考えます。

【会長】

ありがとうございます。

今、皆さんからいただいた意見等は、次の議題にもあります答申内容や平成30年度からの本格実施に向けて、事務局においても、参考、検討材料としていただければと思います

では、次第の2「答申内容の検討について」に入りたいと思います。資料2「行政評価の手法等の検証についての答申に向けて」の説明を事務局よりお願いします。

【事務局】

資料2「行政評価の手法等の検証についての答申に向けて」についてです。平成28年12月に区長から外部評価委員会に「行政評価の手法等の検証について」の諮問をさせていただきます。それを受けて、平成30年1月に外部評価委員会として区長に答申するため、答申内容をまとめるためのたたき台としてまとめています。

内容については、平成29年3月21日開催の平成28年度第9回新宿区外部評価委員会です承をいただいた「行政評価における課題に対する方針」に基づき、平成29年度の通常の外部評価作業や施策評価の試行を通じて、委員の皆様からのご意見やご感想を基にして作成しています。

はじめに、「答申の趣旨について」として、調査対象の範囲について記載しています。区と

外部評価委員会との内部評価と外部評価とのキャッチボールにより、評価の文化の深化と定着が図られてきました。ただ、その反面、計画事業や経常事業の事業単位の評価では、区全体の流れが見えにくく、その事業がどこに位置付けられているのかが分かりにくいという意見があります。今後はより大きな視点で区政を捉えるために、事業単位の評価に加えて、施策単位の評価へ重点を移していくべきである。施策単位の評価については、総合計画の施策体系の個別施策の単位として、当該個別施策を構成する計画事業、経常事業を含めて評価対象の範囲とする。評価の対象とする個別施策については、外部評価委員会において選定する。施策単位の評価に当たっては、経常事業は効果的・効率的な観点からも評価の位置付けや視点の置き方を明確にしておく必要があるのではないかという内容です。

次に、「評価の内容に関すること」について、6項目記載しています。

1つ目に、「指標の設定について」です。事業のタイトルや目的に対して具体的に設定されている目標や指標が十分に理解しやすいものであるかどうか検証してほしい。また、アウトカム指標を工夫することは、かなり定着してきてはいるが、事業の性質上、事業目的に沿ったアウトカム指標が作りにくい事業もあるため、更に工夫を望みたい。また、協働の視点による指標の立て方も工夫すべきであるという内容です。

2つ目に、「評価シートの改善について」です。評価手法の見直しにあわせて、施策評価シートについては、情報の質と量の適正化を図り、評価や分析の視点、評価の選択肢の区分や数などを整理して、評価内容がより分かりやすいものとなるように工夫してほしい。計画事業評価シートについても、施策評価シートと同様の観点から更なる改善を望むという内容です。

3つ目に、「「協働」という視点について」です。外部評価委員会においては、協働という理念を保持しつつ、区においても事業の企画、立案、遂行の段階においていつも協働の視点に留意してほしいという内容です。

4つ目に、「壮大な事業名で、具体的な事業のイメージが湧きにくいものの評価について」です。大きな事業名に対して、実際に行われている事業は比較的小規模な内容の事業があります。その場合に、目標と比較的地道な手段や取組との関連性について、所管課が十分に考え、分かりやすい説明を行うように努めてほしいという内容です。

5つ目に、「複数の性質の違う枝事業をまとめて、一つの計画事業としている場合の評価について」です。それぞれの枝事業の評価が相互に異なる場合、例えば、一つの枝事業は達成度が高く、もう一つの枝事業は達成度が低い場合があります。その場合、総合的に見て、「適当である」または「適当でない」を選び、評価の理由欄に具体的な問題点を指摘するなど、評価に当たって外部評価委員を悩ませていることが多いため、この点についても留意してほしいという内容です。

6つ目に、「事業を外部への業務委託や指定管理者制度によって行っている場合の評価について」です。区としても協働の精神で共に考え、より良い事業にしていくプロセスがどうなっているかが分かるような観点で内部評価を記載してほしい。所管課と受託者、指定管理者との責任分担のあり方、その適切性について区民目線の評価が行えるように今後も工夫してほしい

という内容です。

次に、「評価の方法に関すること」について、8項目記載しています。

1つ目に、「内部評価シートやヒアリングでの説明について」です。外部評価委員会は、内部評価シートの書面だけでは当該事業の指標を達成することがどの程度困難かが必ずしも分からない場合があり、より丁寧な説明が必要である。また、区民への説明責任をより意識した評価姿勢を更に発展させてほしい。施策単位の評価の仕組みにおいては、施策の全体像や計画事業、経常事業との関連性がより分かりやすくなるように、補足資料を活用するなど説明の工夫を望むという内容です。

2つ目に、「ヒアリングの方法について」です。部会の開催回数や、事業によってはヒアリングの時間配分を変えるなどの工夫が必要である。業務委託や指定管理者制度による事業については区の所管課だけではなく、受託者や指定管理者も同席して、一緒に説明と質疑を行ってほしいという要望があるため、今後、検討してほしい。また、ヒアリングの時間は限られているため、より有効に活用するために事前質問の制度を更に活用して、事前質問を軸にしてヒアリングを組み立てることも1つの方法ではないか。当然、施策単位の評価の仕組みにおいては、ヒアリング方法の改善は必要な措置と思われるため、今後の効果的、効率的な運用を期待するという内容です。

3つ目に、「全体会でのヒアリングと評価を行うことの必要性について」です。区の根幹に関わっている事業や特に重点的に取り組んでいる事業については、全体会においてヒアリングや評価の取りまとめを行う必要性もあるのではないかと、今後、検討してほしいという内容です。

4つ目に、「部会の枠組みについて」です。外部評価委員会は3つの部会に分かれて具体的な評価活動を行っているが、他の部会の活動の様子を知りたいという要望もある。その場合、傍聴するほかに、他の部会の評価対象事業に文書質問を出すことができるような仕組みを検討してほしいという内容です。

5つ目に、「現地視察の活用について」です。現地視察については、内部評価シートの書面だけでは分からない部分が実際に現場を見てみると分かることがあり、とても有益であるという意見が多くあります。実施に当たっては、ヒアリングや評価の取りまとめなどの適切な時期に行い、十分な時間を確保することで実態把握の機会を充実させてほしいという内容です。

6つ目に、「個々の事業が全体の中でどういう位置付けであるかについて」です。事業単位での評価だけでは、個々の事業が全体の中でどういう位置付けなのかが分からない、評価しにくいというご意見があります。施策単位の評価の仕組みになれば、個々の事業ごとの評価を行う際の分かりにくさは解消されるのではないかとという内容です。

7つ目に、「事業そのものに関する評価について」です。外部評価の過程の中で、どうしても事業そのものに関する意見を述べざるを得ないことがあります。外部評価の意見としては、事業そのものに関する意見を述べる場合、「その他意見」としているが、今後はもう少し正面から位置付けるようにしても良いのではないかと、しかるべき位置を与える工夫が望まれるという内容です。

8つ目に、「事業の方向性について」です。事業そのものに関係してくる場合が多いため、外部評価においてどのようにいかしていくか、今後の検討課題であるという内容です。

最後に、「評価の運用に関すること」について、2項目記載しています。

1つ目に、「行政評価の反映状況の明示について」です。「内部評価と外部評価結果を踏まえた区の取組」において区の対応を示しているが、その先がどうなったかがいまだ見えにくいという意見があります。外部評価結果がどのように反映され、それを受けて事業等が改善されたかが見えるように、今後は内部評価シートなどで改善点を明らかにしてほしい。事業の見直しや次年度予算編成への反映をより一層徹底して、PDCAサイクルの強化に引き続き取り組んでほしいという内容です。

2つ目に、「区民への説明責任の強化について」です。内部評価の質が年々高くなっており、説明も丁寧になってきているが、引き続きより分かりやすい説明に努めてほしい。区としての説明責任を果たして、区政の透明性を向上させるとともに、評価の過程を通じて職員の更なる意識改革を図ってほしいという内容です。

【会長】

ありがとうございます。

事務局から説明があったように、平成29年3月21日の全体会で決まった「行政評価における課題に対する方針」に基づき、平成29年度の評価作業を通じての意見や課題、試行での意見等を踏まえて資料が作られています。

これから、答申に向けての内容を検討していきたいと思います。何かご質問や意見等がありますか。発言をお願いします。

【委員】

評価手法について、個別施策単位での評価となると、いわゆる目に見えない部分や問題点があると思いますが、最終的には数値目標として施策を測ることになるのでしょうか。

【会長】

数値目標の問題は、第1部会長から問題提起がありましたように、個別施策単位となるとかなり抽象度が上がりますので、数値自体の意味も違ってくると思います。先程、数値目標はあくまで例示のようになるのではないかと述べましたが、施策全体を測ることができるような指標で、かつ数値的な指標がうまく立てられる場合もあるかもしれません。数値目標をどのような取り扱いとするのかについても議論できればと思います。

【委員】

数値目標で測ることのできる事業かどうかを区別する必要があると思います。単年度ごとで終わるような事業については、数値でもって年度ごとで比較できますが、まちづくりや都市計画などについては何十年単位です。長期的なスパンで実施している事業について、ある年度を取り出して数値で評価するということは無理があるのではないかと思いますので、指標の立て方についても考えていかなければいけないと思います。

また、今回の試行において施策体系の説明を受けて感じたことですが、ヒアリングについて

は、施策の体系に沿って実施した方がより分かりやすくなるのではないかと思います。これまでは、所管課の都合等によりそれぞれの事業ごとに実施していたので、分かりにくさが増していたのではないかと感じました。

【会長】

個別施策ごとのヒアリングになれば、ご指摘いただいた点については解消されると思います。ほかにはいかがでしょうか。

【第1部会長】

今回の諮問と答申の範囲というのは、内部評価も外部評価も含まれるのでしょうか。

【事務局】

今回の諮問は、内部評価、外部評価を含めた行政評価の手法等について検証していただくというものです。

【第1部会長】

新宿区外部評価委員会条例第2条では、外部評価は「区が実施した行政評価の結果を踏まえ、当該行政評価の対象となった施策及び事業について、その達成度、効率性、成果、妥当性等を区民の視点に立って分析し、検証すること」とあります。これまでの外部評価の方法として、内部評価を外部評価するということで行ってきていますが、外部評価委員会の事務として、施策及び事業を分析、検証するということを、答申の中でもう少し明確に示した方が良いのではないかと思います。

また、先程から議論もあり非常に重要な論点かと思いますが、施策評価の手法として、まず個別の事業を評価し、それらを取りまとめ、あるいはそれを総合化して、施策の評価をまとめていくというプロセスが必要なのではないかという意見が多く出ていたと思います。施策評価に当たっては、このようなやり方をしないと難しいのではないかというご意見が多いと思いますので、その点についても答申に盛り込んだ方が良いのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

今回の試行でヒアリングを実施した際に、施策全体を表すような資料を所管課から示してもらいました。図なども描いてあり分かりやすかったので、そのような資料もヒアリングの時に活用していただければ施策体系等がより分かりやすくなるのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。

これまでの議論には出てきていませんが、経常事業について、評価対象にするのか、評価における参考情報にとどめるのかということも考える必要があると思います。

今回の試行では、経常事業は取組状況の報告として情報提供のような扱いだったと思います。計画事業以外に参考情報の提供も受けた上で、個別施策単位で評価をすると整理するのであれば、経常事業の情報提供以外に、予算には表れないけれども課としての中心的な業務等につい

での説明や情報も必要ではないかと思います。

個別施策の単位でより大きな視点から評価するという方針で外部評価のやり方を変えていくのであれば、施策にかかわる各部・各課がどのような性質の事業を実施しているのかということとを分かりやすく説明してもらう必要があります。それは必ずしも予算事業だけでなく、課が実施している基本的な業務についての報告や説明を受ける場面も必要ではないかと考えます。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

評価の選択肢についての議論がありましたが、評価が偏るという傾向はどうしても出でくるのではないのでしょうか。5択、3択では真ん中の評価になるでしょうし、4択では、2番目か3番目の評価が多くなると思いますので、4択のままで良いのではないかと思います。

また、これまでの評価の方法だと非常に多くの計画事業を評価していたので、負担感というものもあったのではないかと思います。施策評価に移行し、評価する個別施策を選び、個別施策を構成する事業を徹底的に評価するという評価の方法もあっても良いのではないかと感じています。

【会長】

平成30年度以降は、いくつかの個別施策を選ぶということですよ。

【事務局】

外部評価委員会において選定していただくという形を考えています。

【第1部会長】

選択肢の問題と数値目標の問題を考えていたのですが、非常に雑な言い方をすれば、意味はないということだと思います。必要ないのではないのでしょうか。個別施策については、そのようなものを示すよりも、文章や言葉できちんと説明してもらう方が良いと思います。施策評価シートにおいては、きちんと意味を持つような選択肢や数値目標を設定できないと思いますので、文章や言葉のみで評価するというのではいかがでしょうか。

【会長】

事務局としては、目標を数値化するという方向に何となく進んできたような気がしますが、区として数値目標へのこだわりというのはあるのでしょうか。

【事務局】

まず、区の総合計画があり、その中に個別施策があります。総合計画において、進捗管理のために成果指標を設定します。その成果指標を行政評価においても活用するというものです。行政評価の中の独自の指標ということではないので、成果指標を行政評価に使うかどうかという選択肢はあると思います。この点については、委員の皆様のご意見などを参考にさせていただいた上で決めていければと考えています。

【委員】

私はある程度の指標や数値というのは必要だと思います。区として事業を実施している以上、一つひとつの事業に区民のお金を使っているというところで考え、数字をきちんと出すべきで

はないかと思います。内部評価シートを見ると言葉が非常に多いと感じます。私は、評価の場合には、はっきり相手に伝えるため文章は短くすべきだと思います。ところが、まるで答弁のような感じの文章なので、それよりも支援は何%、助成金はどのぐらい何カ所に行ったというようにはっきり数字で表した方が良いのではないかと思います。

【第1部会長】

その点については、私も同意見です。個別事業については数値化、指標化できる事業がたくさんありますから、数値目標は良いと思います。しかし、施策全体の数値目標というのは非常に難しいのではないかと思います。

【委員】

クモの巣のグラフがありますよね。1つの施策をグラフにして、施策を構成する事業をクモの巣状に何%達成しているかということを表せば、視覚的に分かりやすいと思います。また、なぜ達成していないのかという理由やコメントも同時に書くことによって、施策を支えているそれぞれの事業がどのぐらい努力しているのかということや問題点についての説明もできるのではないかと思います。

【第1部会長】

個々の事業を評価して、その総体として施策を見せるということですよね。それについては賛成です。しかし、施策全体を1つの数値目標で表現するということは難しいのではないかと思います。

【委員】

部会に分かれて試行をしてみて、その検証をしていないため、今、問題となっているような内容について議論になっているような気がします。評価シートの内容まで踏み込むのであれば、個別政策の評価は、4択のうち、ほとんどの回答がおおむね良好になってしまうと思います。試行についてきちんと検証をすることによって、どういう評価シートがいいかなどの議論にながっていくのではないかと思います。

【会長】

いろいろご意見をいただき、これらを踏まえて答申案をつくっていききたいと思います。今、あまり議論になりませんでした。ヒアリングの事前手続や現地視察の重要性については、ずっと言われてきたことですので、答申にいかしていくことになると思います。

さらに何かご発言がありましたらお願いします。

【委員】

他の部会のある議題に対して、非常に興味を持っていたのでヒアリングを傍聴しました。その際に、例えば、事前に内部評価シートを頂き、事前質問ができるようにした方が良いのではないかと思います。他の委員も日常の中でいろいろな意見や疑問があると思います。他部会の委員がヒアリングの場で発言することは難しいと思いますが、何らかの形で質問ができるようにしてほしいと思います。

【委員】

今の意見には賛同します。他の部会の委員の専門性や関心をいかして、質問したり参加したりとかいうことを流動的に実施できればいいのではないかと思います。

【委員】

私はそのために全体会があると思っているのですが。共通の議題について話し合うために全体会はあるのではないのでしょうか。

【委員】

全体会といっても、個別の計画事業や案件については、一つひとつ細かく議論できないと思いますので、そのような意味での意見です。

【委員】

事前に資料を提供し、意見ができるように制度化したらどうですかという意見でしょうか。

【委員】

制度化というよりも、もっと流動的に柔軟に対応できればということです。

【委員】

ヒアリングは、とても大事な場であると私自身も経験上、感じているところですが、ヒアリングの場というのは限られた時間の中でのやり取りとなります。そのため、事前質問が多く出され事前質問を中心にヒアリングを行うとなると、違う視点での質問があった場合に、なかなかヒアリングの場で反映されないということになってしまいます。それは部会全体として損失だと思います。

様々な意見を聞いて評価するには、自分の見方だけではない、ほかの方の切り口や見方も含めて評価を進めていきますので、時間的な制約をどのようにするかということも、とても大事に考えなければいけないと思います。そのため、事前質問を大事にするのであれば、徹底的に事前質問を大事にするという方向性にしないと部会全体の進行上、良くないのではないかと思います。一方、部会でヒアリングの前にきちんと検討しましょうという方向性にするのであれば、それに関しても、徹底してやるべきで、その場に他部会の方の事前質問が集約されても良いと思います。どちらの方法をとるのかということは、きちんと議論した方が良いのではないかと思います。

【会長】

私として受けとめていたところでは、本格的な事前手続のように、部会で事前質問を集約して、ヒアリングはこういうふうに進めましょうというような前段階を置くイメージでしたが、外部評価委員会の総意に基づく答申ですので、いくつかの選択肢を示すことも可能かと思います。本格的に事前質問を中心に考えるのであれば、論点整理をするための部会をヒアリングの前に設けるという仕組みにはなるのかなと思います。

【委員】

事前にきちんとした部会を開いてヒアリングに臨むのであれば、他部会の方の意見がそこで反映されるのではないかと感じたところです。

【会長】

そういうイメージの選択肢を答申の中に示すようにしたいと思います。

【委員】

行政の負担が増えるかもしれませんが、事前質問の回答は文書でしていただければと思います。

【会長】

そのような選択肢もありますね。事前質問は文書で回答して、ヒアリングの場では討論形式を重視するということも考えられます。

【第1部会長】

今の論点は、部会に分かれているけれども、他の部会の委員が他の部会の評価に関心を持っていた場合、どのように関与するかという点だと思います。最終的には、委員会全体で結論を出すことになります。部会は便宜上の役割分担なので、自分の部会以外の評価にも責任は持っているはずですね。全員が同等に、平等とは言わないけれども、当然、何らかの関与はしてもおかしくない、あるいは情報を得るということもあっておかしくないのではないという気がします。

【会長】

実際にやり方を決めていくのは次期の外部評価委員会ですので、答申にどのくらいの具体性で書くかということについては案をつくるときに考えたいと思います。

それでは、今いただいた意見等を踏まえて、私と事務局で作成した答申（案）を、次回の全体会でお示しして、答申を取りまとめたいと思います。

本日はここで閉会します。ありがとうございました。

＜閉会＞